



支援学校について

今回は支援学校について説明します。高等支援学校、共生推進教室、自立支援コースに進学するためには療育手帳が必要です。期限が切れていないか確認して下さい。更新するのに約2ヶ月かかります。もし、期限が近づいている場合は早めに更新をしてください。

とりかい高等支援学校

摂津支援学校と同じ場所にあります。職業課は、「生産技術科」「食とみどり科」「生活科学科」の3学科を設置していて、職業教育に重点を置いた教育課程を編成しています。

さらに職場実習を通し、実践的な就労に必要な知識や技術、態度を身につけ、卒業後は社会自立を意識した上で活躍のできる人材を育成しています。

中学校や中学部で学んできた科目だけでなく、下記のように学科3コースを設定し、生徒の3つの中から特性や希望にそって、1つの学科に所属し3年間専門的なことを学び、加えて全員が職業共通学科「清掃」「喫茶販売」「事務」「流通」も学びます。

どの学科に所属しても「あいさつ」「返事」「身だしなみ」など『働くとは』ということ を学び『働く力』を身につけます。

生産技術科	木工・組み立てなど「工業生産」にかかわる実習を通じ、就労を目指す。
食とみどり科	農園芸や食品加工など「食」に関わる実習を通じ、就労を目指す。
生活科学科	介護サービス・レクリエーション指導などの「福祉分野」の実習を通じ、就労を目指す。

入学者の選抜は、中学校等の校長が提出する調査書及び推薦書並びに検査及び面接(以下「検査等」という。)の結果を総合的に判断します。

共生推進教室

職業学科を設置する高等支援学校と府立高等学校が連携し、知的障がいのある生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行い、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する制度です。週1回は、とりかい高等支援学校に「職業に関する専門教科」を学びに行きます。

入学者の選抜は、設置校である高等学校にて行います。**北摂つばさ高校、千里青雲高校**があります。北摂つばさ高校や千里青雲高校の共生推進教室の卒業校名は「とりかい高等支援学校」になります。

自立支援コース

大阪府では、ノーマライゼーションの理念のもと、すべての幼児児童生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育を基本とし、一人ひとりの障がいの状況に応じた教育を進めています。府立高等学校においても、修学上の配慮を要する多くの生徒が学んでいます。カリキュラムや授業内容を工夫し、知的障がいのある生徒が生きいきと学び、障がいのあるなしに関わらず、ともに高校生活を送り交友を深めていくことをめざしています。中学校の支援教室と同じで授業形態は抽出、入り込み、クラスがあり、一人ひとりに合わせてカリキュラムを作っています。

入学者の選抜は、学力検査を実施せず、面接を実施します。（調査書、推薦書及び面接を選抜の資料とします。自己申告書を面接の参考資料とします。）

園芸高校 阿武野高校 柴島高校などがあります。

摂津支援学校 高等部

学習の形態は、1 コマの授業時間は35分です。ベーシックスタディー（国語、社会、数学、理科）とワークスタディー（職業）は、発達段階および学習到達度に応じた課題別グループ等に分かれて学習します。自立活動を中心とした学習をします。

その他の教科については、学年の実態に応じたグループ編成で学習を行います。

ワーク・キャリアガイダンスは、就労や社会的自立に向け、社会生活に必要な知識・技術を活用する力や態度を育成します。

クラスHRは、クラスや学年での活動、スクールHRは学部での活動を行います。HRの時間は全校で活動できる時間としても設定されています。

個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の移行支援計画を作成し、個に応じた教育をめざします。

1 年生の10月から、職業コースと生活コースの二つの学習グループに分かれ、それぞれのコースで就労や社会的自立をめざします。

生活コース・生徒の実態に合わせて、個別配慮の指導を中心とし、就労および社会的自立に向けた力を身につけます。

職業コース・就労にむけて、社会的自立の力を集中的に身につけます。生徒の職業特性を一層伸長することを目的とし集団指導を中心とします。2年生から、7月と1月に定期考査を行います。また、入学前に、発達の状況を把握するための検査と面接があります。**必ず保護者が同伴**して下さい。

※各高校で学校見学会・説明会がありますので、HPなどで調べて参加して下さい。